

JECC「保守サービス向上月間」で 優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰

■ 10月6日開催表彰式の受賞者235名決まる 保守技術者全国25グループと応募作入賞者

JECCは1972年（昭和47年）以来、毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、コンピュータ保守技術者の日頃の努力を称える「優秀保守技術者表彰式典」を開催している。今年で52回目を迎える式典は、丸ビルホール&コンファレンススクエアで行われ、同時にオンラインでも配信される。JECCではこの行事の一環として、お客様を対象に保守状況調査を実施し、その結果を基に保守サービスの向上を図る保守サービス総点検運動を実施するほか、優れた保守技術者を表彰することで、さらなる保守技術・保守サービスの向上を期待している。

このほど今年度の受賞者として、優秀保守技術者25グループ計227名と、保守サービス向上月間標語及び保守サービスにおける感想文の受賞者8名を決定。来る10月6日に、第52回優秀保守技術者表彰式典において表彰を行うことにした。この式典では、システムの安定稼働を維持するために日夜努力されている多くの保守技術者の中から、特に顕著な功績のあった方々を優秀保守技術者として、また、応募の保守サービス向上月間標語と感想文で入賞された方々をJECCが表彰し、その栄誉を称える。

今回選出された優秀保守技術者は、25グループの227名。この優秀保守技術者の審査は、コンピュータ・メーカー6社から委託を受けた保守サービス担当会社並びに保守担当先のお客様から推薦書が提出された者を対象に、保守サービス会社及びJECCで構成する「保守サービス責任者会議」において、以下3つの選考基準に基づ

き行われた。

- ① 担当するお客様における保守状況が良好で、システムの故障時間が極めて少なく、システムの円滑な運用に顕著な功績があったと認められる者。
- ② 保守技術者の活動を支援し、保守サービスの向上に特に功績があったと認められる者。
- ③ 保守技術の改善に特に功績があったと認められる者。

また、JECCが保守サービス関係者を対象に募集した「保守サービス向上月間標語」は、ハードウェア・ソフトウェア保守サービスの重要性や、保守技術者並びに保守サービス事業に携わる者としての心構えを端的に表現した内容で、最優秀作品に関しては、その年の保守サービス向上月間のポスターなどに掲載される。今年度の応募数は15,889編となり、保守サービス責任者会議で審査した結果、最優秀賞1編と優秀賞4編を決定した。

「感想文」は保守サービス全般をテーマとし、標語と同様に募集を行い、今年度は297編の作品が寄せられた。その中から最優秀賞1編、優秀賞2編、入選作品32選が選ばれた。いずれも保守技術者や保守サービス関係者の業務への努力や意欲・情熱が感じられ、極めて優れた内容となっていた。

さらに受賞作品と、選考プロセスにて選ばれたほかの優秀作品全編を収録した「保守サービス向上月間のしおり・感想文集」を発刊し、全国の保守拠点等関係者に配布する。

また、式典では、株式会社いろどり 代表取締役社長 横石知二氏が、『風の時代を読む「社会の変化を見極め挑戦し続けるいろどり戦略とは』』のテーマで記念講演を行う。

